

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 1 市民が快適に暮らせるまちになる

行動目標 1-2 生活環境を阻害する要因が減少する

(所管課名 上下水道局 下水建設課・下水施設課)

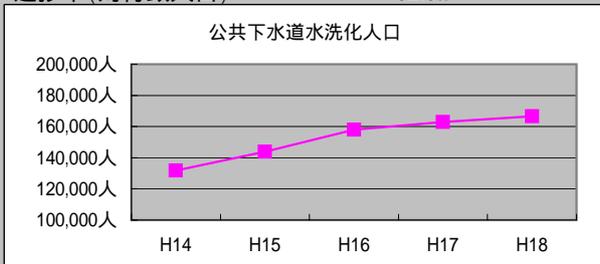
任務 汚水排水による環境への負荷を減らす

任務の成果・活動指標の推移

公共下水道水洗化人口

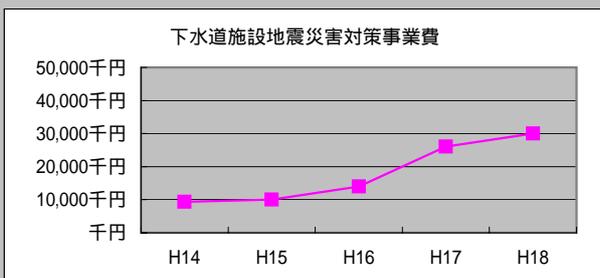
H14実績	131,751人
H15実績	143,792人
H16実績	158,083人
H17実績	162,810人
H18目標	166,550人

進捗率(対行政人口) 52.3%



下水道施設地震災害対策事業

H14実績	9,330千円
H15実績	10,080千円
H16実績	13,964千円
H17実績	26,093千円
H18目標	30,000千円



指標の説明

下水道整備の進展に伴い普及率が向上し、市民の下水道への接続が進むことにより汚水排水の環境への負荷が減少することとなる。これを示す指標として公共下水道水洗化人口を掲げた。また、地震災害対策事業として事業費を掲げた。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

汚水排水による環境への負荷を減らすため、効率的な施設整備に取り組んできたが、成果・活動指標である水洗化人口は各年度の当初目標を達成した。取組事業は次のとおり。

汚水管渠等の整備については、采女中継ポンプ場の建設をはじめ、市内各地において幹線管渠及び支派線整備を行い整備区域を拡大し、普及率を向上させた。

日永浄化センターにおいては、下水道整備の進展に伴い汚水処理能力が平成23年度には限界に達するため、第4系統の基本設計及び詳細設計業務を行い、工事着工に向けて事業を進めてきた。また、焼却炉設備の更新工事も進めた。

施設の耐震化については、日永浄化センター等の基幹施設について耐震調査業務を行ったところ、日永浄化センター第2系統では管理棟や沈殿池設備等で、常磐ポンプ場では全面的に、水管橋では調査を実施した7カ所のうち5カ所で耐震補強が必要であるとの結果を得た。

平成18年度

汚水管渠等の整備については、引き続き采女中継ポンプ場設備工事を行うとともに市内各地において幹線管渠及び支派線整備を行い、整備区域の拡大を行う。

日永浄化センター第4系統について平成17年度に引き続き詳細設計業務を行うとともに未取得用地を早期に取得し、また、進入道路の築造を行う。

施設の耐震化については、日永浄化センター第3系統、桜台汚水管線等の耐震診断を行う。

合流改善事業として、阿瀬知2号幹線内部の管更生を行う。

これからの課題、施策等展開の方向性

日永浄化センター第4系統は、高度処理化を含めて平成23年度から供用を開始する。

面整備の拡大にあたっては、アクションプログラムとの整合を図りつつ、効率的な整備を進めるとともに、水洗化の向上に努める。

ライフラインとしての下水道の役割を勘案した耐震診断を引き続き実施し、その結果に基づき平成19年度から耐震工事を計画的に実施する。

平成16年度に策定した合流式下水道緊急改善計画に基づき、合流改善実施計画を策定し、合流改善を計画的に実施する。